

編集後記

執筆者紹介

本号は「同志社国文学」創刊以来初の国語学特集号である。今春ご退職になる国語学担当の松下貞三教授の長期にわたるご薫陶に感謝するためである。

先生は、一九五六年から非常勤として、一九五八年からは専任として、本学国文学専攻で研究教育に従事してこられた。先生の講筵に列した学生は恐らく一、〇〇〇名を超すであろう。

潔癖誠実で慎重に事にあたられるのが先生であった。「吾妻鏡」の研究から出発されて、のち「近代口語文体」「国語教育」関係の発表をつづけられたが、近年は「漢文和化」「和習」の研究に没頭され、一昨年には『漢語「愛」とその複合語・思想から見た国語史』をまとめられた。ご関心はやはり漢語漢文を受け入れた日本語における変の現象に収斂されていたと言える。ご研究の方法とお人柄から強い感化を受けた学生が多かった。

先生には、ご退職のちもお元気で後進をお導き下さるようお願い申しあげたい。

匆忙の間にとくに本号のためにご寄稿下さった執筆者各位に、この欄をかりて心からお礼申しあげる。

(玉村文郎)

堀川善正……池坊短期大学教授
本学嘱託講師

遠藤邦基……奈良女子大学助教
本学嘱託講師

紙谷栄治……京都府立大学女子短期大学部助教
本学嘱託講師

蜂矢真郷……昭和四十八年度本学大学院(修士課程)修了
帝塚山学院大学助教

浅野敏彦……昭和四十五年度本学大学院(修士課程)修了
大阪成蹊女子短期大学助教
本学嘱託講師

吉野政治……昭和四十九年度本学大学院(修士課程)修了
京都府立東稜高等学校教諭
本学嘱託講師

玉村文郎……本学教授